



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 山陽電気鉄道株式会社

コード番号 9052 URL <http://www.sanyo-railway.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上門 一裕

問合せ先責任者 (役職名) 経営統括本部マネージャー (氏名) 水谷 大輔 TEL 078-612-2032

四半期報告書提出予定日 2020年2月7日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	37,080	△2.4	3,505	12.1	3,589	13.3	2,458	15.2
2019年3月期第3四半期	38,003	8.5	3,126	△1.2	3,168	△0.8	2,135	△3.8

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 2,735百万円 (79.5%) 2019年3月期第3四半期 1,523百万円 (△46.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	110.66	-
2019年3月期第3四半期	96.09	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	96,462	42,296	42.7
2019年3月期	98,011	40,228	40.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 41,221百万円 2019年3月期 39,232百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	-	12.50	-	15.00	27.50
2020年3月期	-	15.00	-	-	-
2020年3月期（予想）	-	-	-	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,424	△0.1	4,373	18.6	4,395	17.7	2,985	30.6	134.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2020年3月期3Q	22,330,598株	2019年3月期	22,330,598株
2020年3月期3Q	109,158株	2019年3月期	108,583株
2020年3月期3Q	22,221,706株	2019年3月期3Q	22,222,852株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用・所得環境の改善が続き、景気の緩やかな回復基調が続くことが期待されたものの、海外情勢の不確実性の影響などもあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなか、鉄道事業においては、沿線各地で開催されたイベントを積極的にPRし、沿線内外からの旅客誘致に取り組みました。また、流通業では山陽百貨店において、地元の独自性のある商品の販売強化や人気催事の開催を通じて、一層の収益拡大に努めました。このほか、不動産業においては、引き続き分譲マンション事業の展開に注力しました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、営業収益は37,080百万円と前同四半期連結累計期間に比べ923百万円(2.4%)の減収となりましたが、諸経費の減少により営業利益は3,505百万円と前同四半期連結累計期間に比べ379百万円(12.1%)の増益、経常利益は3,589百万円と前同四半期連結累計期間に比べ420百万円(13.3%)の増益となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,458百万円と前同四半期連結累計期間に比べ323百万円(15.2%)の増益となりました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりとなります。

なお、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更しています。詳細は「2. (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりであります。

①運輸業

鉄道事業におきましては、沿線企業の活況が継続し定期運賃収入が好調に推移しているほか、アニメ「忍たま乱太郎」とのコラボレーション企画の実施や、行楽シーズンに合わせて沿線で開催された各種イベントの積極的なPR活動により、定期外運賃収入も増収となりました。バス事業では、明石市コミュニティバス路線の一部を他事業者に引き継いだことにより減収となりました。また、タクシー業では、稼働車両数の減少等の影響により減収となりました。

運輸業全体では、外部顧客に対する営業収益は14,997百万円と前同四半期連結累計期間に比べ64百万円(0.4%)の増収となり、営業利益は1,717百万円と前同四半期連結累計期間に比べ519百万円(43.4%)の増益となりました。

②流通業

百貨店業におきましては、消費税率の引き上げ以降、暖冬の影響もあいまって衣料品の売上に減少傾向が見られたものの、それ以前において美術・宝飾品等の催事で高額品購入の需要を取り入れたことなどにより増収となりました。コンビニエンスストア業におきましては、引き続き「ローソン+フレンズ」の各店舗が堅調に推移したことにより、増収となりました。

流通業全体では、外部顧客に対する営業収益は16,185百万円と前同四半期連結累計期間に比べ246百万円(1.5%)の増収となり、営業利益は221百万円と前同四半期連結累計期間に比べ23百万円(11.9%)の増益となりました。

③不動産業

分譲事業におきましては、大阪府泉大津市で「プレイズ泉大津」や西宮市で「ルネ西宮仁川」の引き渡しがありました。前期との分譲規模の差により減収となりました。賃貸事業では、前期に取得した「ルネサンス上板橋」や「エス・キュート梅田東」の賃貸収入が通期で寄与したことにより、増収となりました。

不動産業全体では、外部顧客に対する営業収益は3,398百万円と前同四半期連結累計期間に比べ1,276百万円(27.3%)の減収となり、営業利益は1,379百万円と前同四半期連結累計期間に比べ195百万円(12.4%)の減益となりました。

④レジャー・サービス業

飲食業におきまして、ケンタッキー・フライド・チキンで実施した様々なキャンペーンが好調であったことや前期の店舗改装による休業の反動により増収となったものの、一部喫茶店の閉店や、舞子ホテルでの婚礼件数の減少等により減収となりました。

レジャー・サービス業全体では、外部顧客に対する営業収益は1,478百万円と前同四半期連結累計期間に比べ34百万円(2.3%)の減収となりましたが、諸費用の減少などから、営業利益は45百万円と前同四半期連結累計期間に比べ41百万円(前年同期は3百万円)の増益となりました。

⑤その他の事業

その他の事業のうち総合ビルメンテナンス事業におきまして、姫路市の児童教育施設や播磨町の健康・介護施設の管理業務を受託するなど、積極的な営業活動を行いました。また、一般労働者派遣業においては、沿線自治体の業務を受託したことにより、増収となりました。

その他の事業全体では、外部顧客に対する営業収益は1,020百万円と前同四半期連結累計期間に比べて76百万円(8.1%)の増収となりましたが、営業利益は116百万円と前同四半期連結累計期間に比べ28百万円(19.7%)の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて1,548百万円減少し、96,462百万円となりました。また、純資産は前連結会計年度末に比べて2,067百万円増加し、42,296百万円となり、自己資本比率は42.7%となりました。

増減の主な内訳は、資産の部では現金及び預金が2,503百万円、建設仮勘定が2,032百万円、それぞれ減少し、分譲土地建物が1,392百万円、機械装置及び運搬具が1,874百万円、それぞれ増加しております。負債の部では支払手形及び買掛金が1,285百万円、長期借入金1,860百万円、それぞれ減少しました。純資産の部では、利益剰余金が1,792百万円増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期までの業績及び今後の見通しを勘案し、2019年11月8日に公表しました業績予想を変更いたしております。

通期の業績予想につきましては、営業収益は51,424百万円と前連結会計年度に比べ51百万円(0.1%)の減収となりましたが、営業利益は4,373百万円と前連結会計年度に比べ687百万円(18.6%)の増益、経常利益は4,395百万円と前連結会計年度に比べ661百万円(17.7%)の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は2,985百万円と前連結会計年度に比べ699百万円(30.6%)の増益を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,893	5,390
受取手形及び売掛金	2,312	2,380
商品及び製品	1,065	1,345
分譲土地建物	4,432	5,825
その他	801	958
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	16,503	15,898
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	36,547	35,701
機械装置及び運搬具（純額）	7,909	9,784
土地	22,088	22,145
建設仮勘定	2,761	729
その他（純額）	1,044	948
有形固定資産合計	70,352	69,309
無形固定資産	304	278
投資その他の資産		
投資有価証券	6,637	6,883
長期貸付金	68	63
退職給付に係る資産	2,588	2,548
繰延税金資産	258	247
その他	1,315	1,248
貸倒引当金	△16	△15
投資その他の資産合計	10,851	10,975
固定資産合計	81,508	80,563
資産合計	98,011	96,462

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,608	5,323
短期借入金	5,616	5,086
未払法人税等	815	417
賞与引当金	552	480
商品券等使用引当金	233	233
役員賞与引当金	36	—
その他	8,135	8,637
流動負債合計	21,998	20,179
固定負債		
社債	6,000	6,000
長期借入金	23,739	21,879
繰延税金負債	33	180
退職給付に係る負債	1,500	1,577
長期前受工事負担金	51	178
受入敷金保証金	3,982	3,755
その他	475	415
固定負債合計	35,784	33,986
負債合計	57,782	54,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,090	10,090
資本剰余金	6,853	6,854
利益剰余金	20,268	22,060
自己株式	△171	△172
株主資本合計	37,040	38,831
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,496	1,725
退職給付に係る調整累計額	696	664
その他の包括利益累計額合計	2,192	2,389
非支配株主持分	996	1,075
純資産合計	40,228	42,296
負債純資産合計	98,011	96,462

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業収益	38,003	37,080
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	30,765	29,557
販売費及び一般管理費	4,112	4,016
営業費合計	34,877	33,574
営業利益	3,126	3,505
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	150	151
持分法による投資利益	1	1
雑収入	178	214
営業外収益合計	332	370
営業外費用		
支払利息	194	194
雑支出	95	92
営業外費用合計	289	286
経常利益	3,168	3,589
特別利益		
工事負担金等受入額	93	326
固定資産売却益	0	13
投資有価証券売却益	80	—
収用等特別勘定取崩益	62	—
特別利益合計	236	339
特別損失		
工事負担金等圧縮額	93	326
固定資産除却損	16	8
収用等代替資産圧縮損	62	—
特別損失合計	171	334
税金等調整前四半期純利益	3,233	3,594
法人税、住民税及び事業税	911	993
法人税等調整額	113	65
法人税等合計	1,025	1,058
四半期純利益	2,208	2,535
非支配株主に帰属する四半期純利益	72	76
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,135	2,458

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	2,208	2,535
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△680	228
退職給付に係る調整額	△3	△28
その他の包括利益合計	△684	199
四半期包括利益	1,523	2,735
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,452	2,656
非支配株主に係る四半期包括利益	71	79

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(表示方法の変更)

当社及び須磨浦遊園株式会社の「索道事業」、「遊園事業」における「一般管理費」について、従来、「営業費」の「販売費及び一般管理費」に表示しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「運輸業等営業費及び売上原価」に表示しております。

この変更は、当連結会計年度を初年度とする山陽電鉄グループ中期経営計画において重点施策である「各事業の連携強化による企業価値の向上」を踏まえ、従来、「レジャー・サービス業」及び「その他の事業」に区分しておりました「索道・遊園事業」において、それぞれの施設運営を当社の直営とし、施設管理・営業の両面から鉄道事業と一体にして運営を行う方針となったことから、「運輸業」にセグメント変更を行うことによるものであります。

なお、この変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、「販売費及び一般管理費」に表示しておりました16百万円は、「運輸業等営業費及び売上原価」に表示しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・ サービス業	その他の 事業	計		
営業収益								
(1)外部顧客に対する 営業収益	14,932	15,939	4,674	1,513	944	38,003	—	38,003
(2)セグメント間の内部営業 収益又は振替高	296	37	527	44	1,537	2,444	△2,444	—
計	15,229	15,977	5,201	1,558	2,481	40,447	△2,444	38,003
セグメント利益	1,198	198	1,574	3	144	3,119	6	3,126

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去6百万円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・ サービス業	その他の 事業	計		
営業収益								
(1)外部顧客に対する 営業収益	14,997	16,185	3,398	1,478	1,020	37,080	—	37,080
(2)セグメント間の内部営業 収益又は振替高	299	26	356	40	1,324	2,047	△2,047	—
計	15,297	16,212	3,754	1,518	2,345	39,127	△2,047	37,080
セグメント利益	1,717	221	1,379	45	116	3,480	25	3,505

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去25百万円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「2. (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 追加情報(表示方法の変更)」に記載の通り、第1四半期連結会計期間より、従来、「レジャー・サービス業」及び「その他の事業」に含めて表示しておりました当社及び須磨浦遊園株式会社の「索道事業」及び「遊園事業」を、「運輸業」の「鉄道事業」に含めて表示しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分方法により作成しております。